

今冬の天候の見通し

- 昨冬の経過
- 今冬の天候の見通し（3か月予報）
- 雪の経年変化と将来予測

令和4年11月29日
札幌管区気象台



■ 昨冬（2021年冬：12月～2月）の経過

- 昨冬の平均気温は、北海道平均では平年並となったが、オホーツク海側は平年より高かった。
- 昨冬の降水量は、日本海側とオホーツク海側で平年よりかなり多く、1月は全道的に平年よりかなり多かった。
- 昨冬の降雪量は、日本海側とオホーツク海側で平年より多く、特に1月はオホーツク海側でかなり多かった。
- 昨冬の日照時間は、平年より多く、12月は平年よりかなり多かった。

平均気温平年差
2021/12～2022/2



降水量平年比
2021/12～2022/2



日照時間平年比
2021/12～2022/2



12月～2月

	気温 平年差 (℃)	降水量 平年比 (%)	降雪量 平年比 (%)	日照時間 平年比 (%)
北海道地方	0.4 (0)	115 (+)	103 (0)	110 (+)
日本海側	0.3 (0)	122 (++)	108 (+)	116 (+)
オホーツク海側	0.7 (+)	129 (++)	113 (+)	102 (0)
太平洋側	0.4 (0)	99 (0)	91 (-)	107 (+)

【階級の説明】

- ++：かなり高い・多い、
- +：高い・多い、
- 0：平年並、
- ：低い・少ない、
- ：かなり低い・少ない

月の統計開始：1946年～

旬と降雪量の統計開始：1961年～

札幌市の降雪・積雪の経過 (2021年11月~2022年4月)

降雪量と最深積雪の推移 (札幌)

■ 日降雪量 — 日最深積雪 — 日最深積雪平年値



各月の降雪量

11月
かなり少ない

12月
平年並

1月
多い

2月
多い

3月
かなり少ない

4月
少ない

気温・降水量・降雪量（日本海側）はほぼ平年並。
 低気圧の影響を受けやすい時期がある見込み。

予報のポイント

- 向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並でしょう。
- 向こう3か月の降水量、日本海側の降雪量は、ほぼ平年並の見込みですが、低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。

3か月の平均気温・降水量・降雪量

		平均気温（3か月）	降水量（3か月）	降雪量（3か月）
北海道	日本海側	低 40 並30 高30% ほぼ平年並 の見込み	少30 並30 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少30 並30 多 40% ほぼ平年並 の見込み
	オホーツク海側		少30 並30 多 40% ほぼ平年並 の見込み	予報しません
	太平洋側		少30 並 40 多30% ほぼ平年並 の見込み	



■ 3か月予報（12月～2月）（11月22日発表）

各月の気温と降水量はほぼ平年並。
1月は冬型の気圧配置がやや強い見込み。

月別の平均気温・降水量

		平均気温 12月	平均気温 01月	平均気温 02月
北海道地方		低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み	低40 並30 高30% ほぼ平年並の見込み	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	平均気温 12月			
	平均気温 1月			
	平均気温 2月			
		低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)	低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)	低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)

日本海側：
【気温】
1月は低い確率高め
【降水量】
1月は多い確率高め

		降水量 12月	降水量 01月	降水量 02月
北海道	日本海側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
	オホーツク海側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み



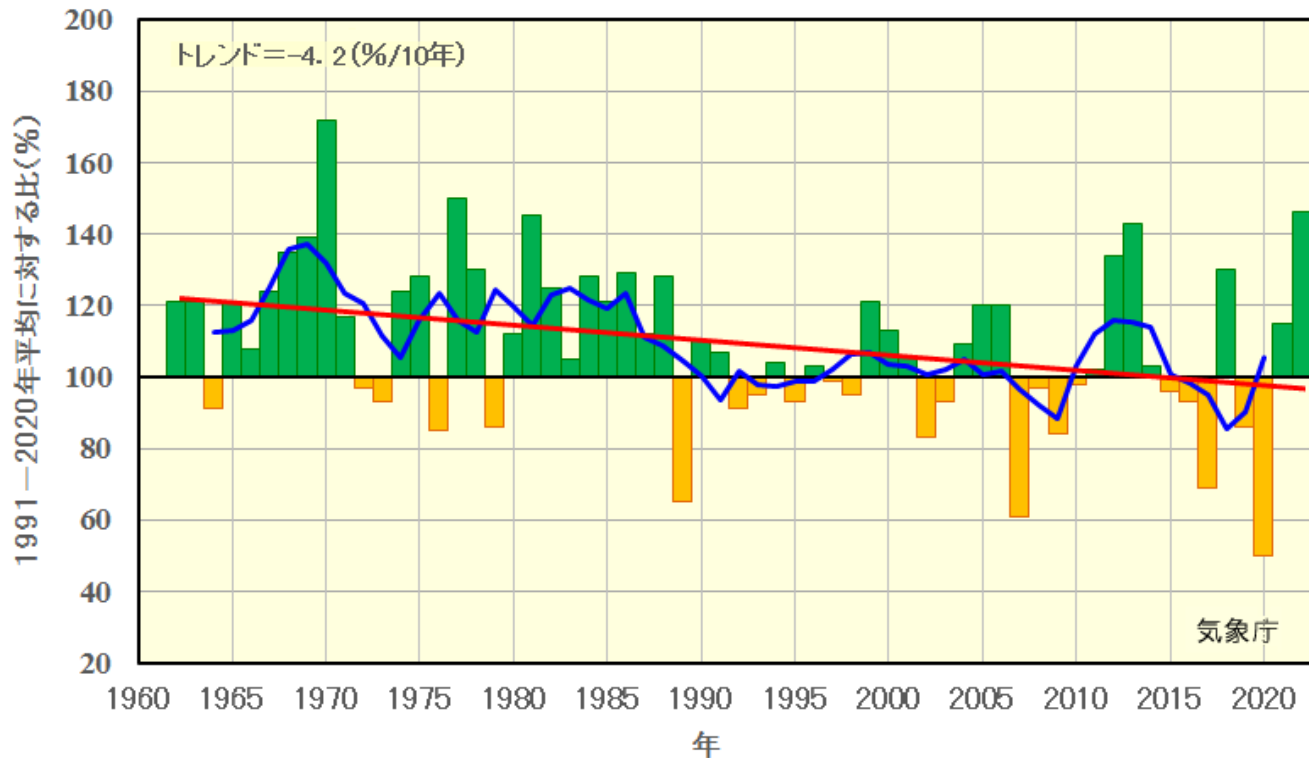
● 注意点等

- 例年、強い冬型の気圧配置や低気圧の影響により大雪となることがあります。
- この冬も昨年同様に低気圧の影響を受けやすい時期があると予測しており、大雪をもたらすような発達した低気圧の影響を受ける可能性があります。
- その時期や強さ、影響の度合いは最新の天気予報・気象情報等をご利用いただき、早めの備えを心がけてください。
- 低気圧の進路によっては、暖かい空気が流れ込んで湿った雪が降る可能性があります。

■ 年最深積雪（平年比）の経年変化

- 日本海側8地点の平均では10年あたり約4%の割合で減少している
- オホーツク海側・太平洋側では有意な長期変化は見られない

年最深積雪平年比（北海道日本海側8地点平均）



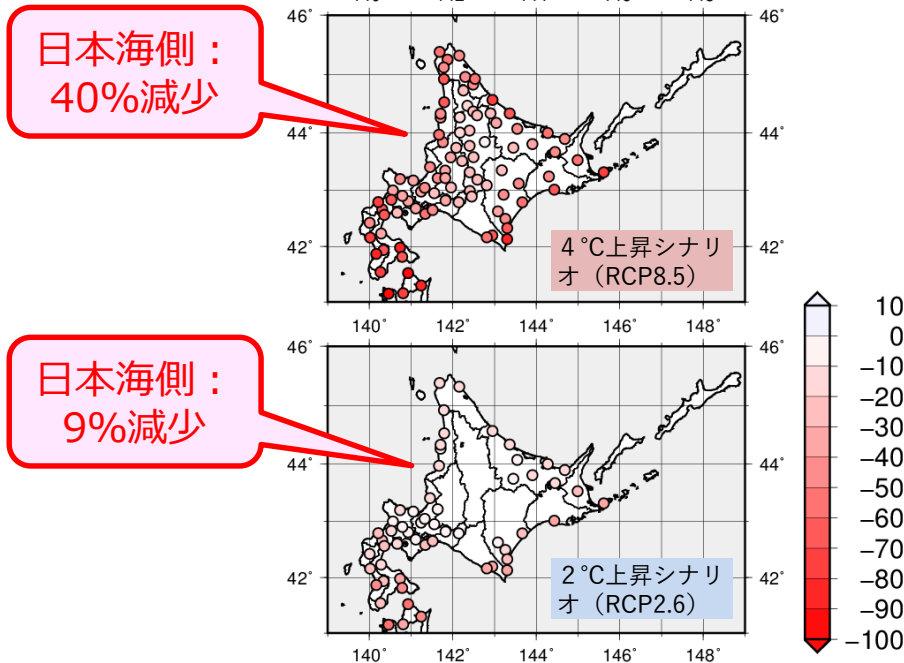
※1962年以降継続して観測してる稚内、留萌、旭川、札幌、岩見沢、寿都、江差、倶知安の8地点
統計期間は、1962年寒候年～2022年寒候年（寒候年：8月1日～翌年7月31日）
平年値は、1991～2020年の30年平均値

21世紀末の年最深積雪・降雪量（2月）の予測

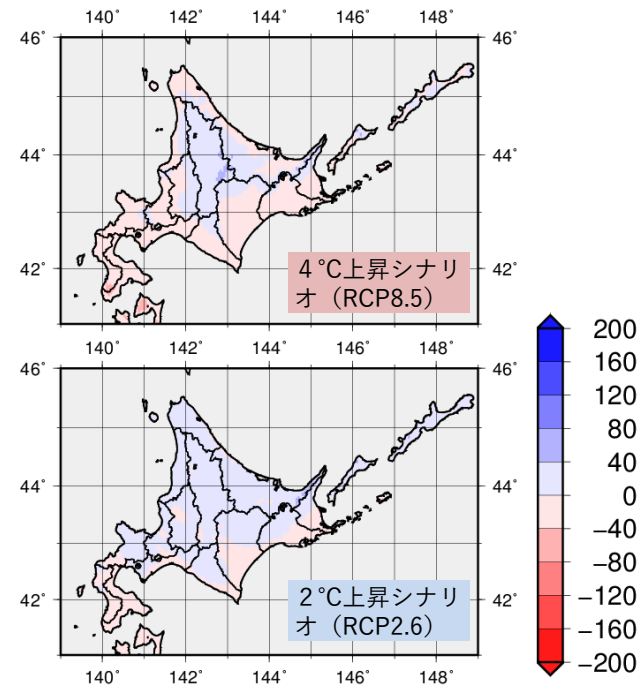
➤ 温暖化が進行しても、**すべての場所で雪が減るとは限らない**

年最深積雪の将来変化(%)

2月の合計降雪量の将来変化(cm)



日本の気候変動2020(詳細版)図6.2.1(抜粋:表示範囲変更)



日本の気候変動2020(詳細版)図6.2.4(抜粋:表示範囲変更)

21世紀末の積雪・降雪量の予測（北海道地方）

- 北海道内陸部には、厳冬期の降雪量及び最深積雪が**増加する地域もある**。
- 気温上昇による水蒸気量の増加に伴って降水量が増加し、かつ温暖化が進んだとしても十分に（雪が融けない程度に）**寒冷な地域であれば、降雪量及び積雪量が増加することによる**。